

Q 「妊娠中に X 線検査を受けて大丈夫ですか？」

A 担当医に妊娠の可能性を伝えてない時は、注意が必要です

腹部以外の検査（胸部や四肢など）では、生殖腺への被ばくはほとんどないと考えられています。しかし、**下腹部**が含まれるX線検査に関しては、**「もし、妊娠しているかもしれないと思われた時は、必ず検査前に主治医、診療放射線技師にお知らせください。」**

また、来るべき次の月経が遅れている場合は、妊娠しているものと考えて頂いた方が良いでしょう。

万が一、妊娠に気付かず放射線検査を受けてしまった場合でも、100mGyを超えて被ばくをしない限り、胎児への影響はないと言われています。



急性腹症【*1】など、緊急を要する病気のとくに、必要な検査であれば受けるべきです！！

妊娠の可能性を否定できない場合には、病状に関連して妊娠の可能性のない時期に検査を行うことが最適です。

【*1】：「急性腹症」とは・・・

急性に発生した激しい腹痛を、主な症状とするいろいろな病気の総称で、救急処置がなされるまでの仮の診断名でもあります。

急性腹症を引き起こす主な病気としては、腹腔内臓器の閉塞・狭窄、腹腔内臓器の炎症、腹腔内臓器の出血、胆石、尿管結石などがあります。生命の危険を供うものもあり、慎重な対応が必要です。

《放射線が胎児に与える影響は??》

放射線を受けた時期	胎児に与える影響	胎児のしきい線量
着床前期（受精～9日）	流産	100mGy 以下
器官形成期（受精後2～8週）	奇形	100mGy 以下
胎児期（受精後8週～出生） 特に8～15週	発育遅延 精神発育不全、発癌	100mGy 以下 120mGy 以下

「しきい線量」…

人の放射線障害の経験を基に、被曝集団 1～5%の人々に異常が認められる線量。或は、被曝集団の 10% に影響が認められる線量の 2/3 の線量を表します。

参考文献 老人のための家庭医学百科より

JART 日本放射線技師会雑誌 2005・Vol.52/No.629

医真会八尾総合病院 放射線科